

共生未来へ

住まいのヒント

雪国新潟に住む人々は、山菜採りに出かけられるような季節になれば、冬の間を除雪で難儀したことをもうすっかり忘れてしまいます。それほど雪国の春はイイのです。



手前が無雪道路の始まり。写真やや上の横の道路は公園の堀沿いの通常道路で、除雪車による除雪後の硬い雪の塊が見える。周囲には約80センチの積雪があった

す。しかし春になっても雪を忘れられない世帯が増えてきました。最近実施された上越市民三千人規模のアンケートでは、「人にやさしいまちづくり」のために必要なもの第一位が「歩道の整備」で、第二位が冬季の「除雪の強化」でした。

車いすで生活しているIさんは、今年一月中旬の大雪で、九日間家に閉じ込められたとのこと

無雪道路

生活の自立のために

除雪車が除雪した後の玄関前の雪はたれにとっても問題です。山になった雪は硬くなっています。雪が降った朝の役所は苦情電話が鳴りっぱなしになると思います。流雪溝の整備が進んでいますが、その流雪溝に雪を投げ込まない高齢者世帯

全く効果なしでした。上越市では二つの方法で冬季の無雪道路化研究を進めています。地下熱を利用する方法と、もう一つは青田川と高田公園の堀の水を少し温めて道路に散水する方法です。雪が降ると出かけて観察の方法も明らかな効果がありました。実験道路に面した住民の方は「このような無雪道路をぜひ広げてほしい」との感想を話していました。

今年の一月十八日には一・四層の積雪になり、その三日後の日曜日が晴れたので、近所の多くの家で屋根の雪下ろしが行われました。高床式住宅が増え、高い位置での作業は以前に増して危険になり、高所作業のプロに頼まれた方もおられました。現在の屋根形状は「手掘り型」がもっとも多い

が増えてきました。医療、福祉、建築専門家のネットワーク「快適住まい環境研究会」では玄関前の除雪後の硬い雪を溶かす方法を、市販の電気融雪マットで試みました。このマットは降りつつある雪を溶かすには効果があるのですが、硬い雪は短大教授・上越市)